



TITLE:

南米日食観測行(2): ロスアンゼルスより

AUTHOR(S):

CITATION:

南米日食観測行(2): ロスアンゼルスより. 天界 1937, 17(196): 380-382

ISSUE DATE:

1937-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167521>

RIGHT:

南米日食観測行 (2)

〔ロスアンゼルスより〕

④ フラッシュ

*皆がいつなん時でも何かを食つて居る。此の國の歴史は最初食べ続けなければ1ヶ月も維持せなかつたらう。そこで世界各國から態々食べに人種が蟻集して來た。そして誰かガムを考へついた。

*金がなければ電車賃は拂は無くてもいい。皆が金を拂はなければ誰か1人が代つて金を出して呉れる事になつて居る。

*とある Square のベンチにフラチガン氏がタメムスを讀んで居る。コリンズ君がやつて來る。此の時間に2人は昨日も會つて居るし、おととひも會つて居るし明日も會ふ。此處は最も氣さくなクラブであり應接室である。美しい1人の婦人が皆の前で強い光の焦點で1枚1枚ウスイ肌着を剥いで行く。猥褻ブルース調に合はせて彼女は女王の威嚴の中に全裸になつて行く。見物人が全部アンコールすれば彼女は白い皮膚を脱いで海蛇にでもなつて見せるだらう。

*日曜日は神の思召により休まなければならないのだが、それでは1週間一度人間は死ななければならない。で皆がハツトドツグを咬へて歩く。

*ダリリング! 青い空氣に包まれ、豊富な光線に甘やかされた閨房。1人の行人は45°に空を凝視して過ぎ行かなければならない。

1年の1/3を太平洋海岸は若い男女の裸形で防備されて居る。galの背は大きな一つの掌のアトを残して健康な怠惰に赤々と發情する。

*手で素晴らしく多量の水をかくのだがそれで居て案外身體が前方に進まない。之はボルトとスチーマーとの比較である。日本人は不格好だが強力なスクリュートをゆはへつけたものだ。

*1日の指揮で幾千人が突如帽子をかなぐり捨て不動の姿勢で直立する。…次のアイダの曲に移る迄。小蔭のミシンの中でタムはスーデ1の頸を左手に抱き換へる。

* 万才は世界を通じて女の方がヒゲをはやして居る。臆面もなく男は女の股の下で最下等な奴隷になつて見せる。それが觀衆にはさも満ち足りたウーピである。

(ホリ牛生)

⑤ 道は道でも?!

Griffith Park の椰木の並木路を通り抜けた私達の車は、其の裏山にある Griffith 天文臺へ向つてかなりの坂道を30哩の速力で心持よい5月の風を切りながら上つて行く。黒紫に光つたアスファルトの道の真中には、眞白い1本の白線が何處までも續いて、車の左側を後へ後へと流れて行く。道の兩側は左も右も總べて芝生の美しい植込みである。5月の空に萌ゆる様に^{あを}緑い芝生の色が目キラキラ輝いて眩しい程美しい。そして其の中に、所々、赤や黄色の可愛らしい草花が咲き亂れて居る様は、實に天國へ通ずる紅の橋である。道路が完全に舗装されて居るからタイヤが赤土にめり込まない。歩いて上つても靴がドロドロにならない。雨が降る度に道が壊れる心配がない。凸凹もないから自動車の中で踏ん張る必要もない。道が廣いから自動車が自由に、且、安全にすれ違へる。目障りな立札がないから落書する所がない。雑草が鬱蒼と繁つてないから山火事の心配も少なからう。3里や4里の道は自動車があれば15分で行ける。かくて米國殊に California の自動車道は癪に障る程美しい。だが併し、何處かの天文臺道の様に、道々松茸を取りながら上つて行けないのは彼等にとつて誠にお氣の毒である。

仰ぐ5月の碧空は、限り無く澄み渡つて、遙か右手の Hollywood の上空に、飛行船が一點悠々と舞つて居た。

(Los Angeles にて、Σ 生)

〔パナマより〕

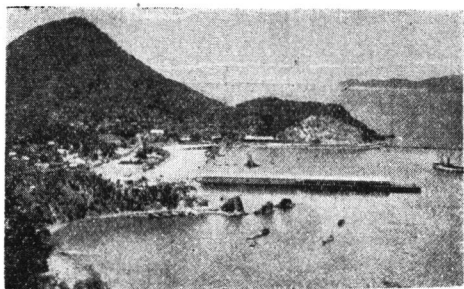
⑥ 中米を下る

◎航海日誌——4月30日 Los Angeles を出航、5月5日 Mexico 國 Manzanillo 着、5月7日同港發、5月11日 Nicaragua 國 Corinto 着、5月12日同港發、5月13日、Costarica 國 Punta Arenas 着、6時間の碇泊の後、同港出航、明5月15日早朝 Panama 國 Balboa に着く筈。

◎San Francisco を出航して約半月の北米沿岸の航海中、終日曇天にして

太陽を見なかつた日は全く一日もなつた。連日連夜眼にしみ渡る様な碧い空が水平線の下迄つき抜けて、毎日カンカン照りの土用干であつた。併し暑いと云つても、何處かサラリとした気分があり、日本の蒸し風呂の暑さとは自から別である。併し6月に這入れば、所謂雨期となつて、此の反對に、毎日雨ばかり降るさうだ。

◎Mexico, Nicaragua, Costarica 皆それぞれの掟がある。私達は船の碇泊中出来るだけ上陸し、一生再び来る事のないであらう此れ等の街を、飽かず見物した。嫌でも應でも使はなきや解らない西班牙語を、手まね足まね、尙それでも足りない時には、上衣や靴迄ぬいで、頭の上に振り廻はし、やつと道



(マンザニヨ港)

を聞いたり、買物を済ませたりした。いゝ男が2人、道の真ん中で正氣で踊つて居るさまは、何としても見られたものではない。

◎此んな處にと思はれる處で日本人に會ふ。Manzanillo には數人の日本人が、それぞれ一戸を構へて可なりの店舗を張つて居る。Punta Arenas では、偶然、遠く米國 San Pedro より出稼ぎに来て居た漁船に會つた。彼等は日本船を見てわざわざ船迄やつて来る。共に語る彼等の眼は常に遠き故郷の空を見つめて、一昔も前の内地の思出でに、何時しか濡れて来るのであつた。

◎Manzanillo 入港の日は丁度 Mexico 戦捷記念日で一年中の最も賑かな日であつた。老いも若きも男も女も、此の街に一つしかない公園に集ひ來り、今宵一夜を彼等が命と歡を盡すのであつた。Mexico 情緒豊かなメロディが椰子の木葉を渡る時、流し來る街の音楽師に、つひ誘はれて、公園全體が一つの露天ダンスホールとなる。私達は木蔭の椅子に腰かけて、一杯のメキシコ・ビールに渴を醫やしつゝ、彼等の此の日を祝福した。降る星空に擧げる杯、映つる北極星は低くかつた。

◎かくして我々は港々に思ひ出を残しつゝ日一日と日食圏内に近づきつゝある。

(2 生。5月14日 Panama 入港の前日)